



文化九申年三月ヨリ  
同十年三月迄

諸向分達書

庫	文	閣	内
二 三九 函	三 五九 七 冊	七 冊	和 書 類
一 架			

庫	文	閣	内
一 八〇 函	三 五九 四 七 冊	七 冊	和
二 一 架			

内閣文庫		
番號	和	35947
冊數	7	(6)
函號	180	105

史五〇

松本和泉守留  
稻葉丹後守



未年

少子帳 不 少月 考 不 物

惣 数 百 廿 拾 四

日 七 拾 二  
廿 拾 三  
中 年 廿 二 年 十 月 廿 二 日

中 野 彌 敏 少 貳

拾 四 日  
六 日  
中 年 十 二 年 十 月 六 日

和 泉 三 友 少 貳

二 拾 六 日  
二 拾 二 日  
中 年 十 二 年 十 月 二 拾 二 日

仙 中 三 友 少 貳

二 拾 四 日  
二 拾 四 日  
中 年 十 二 年 十 月 二 拾 四 日

石 糸 色 友 少 貳

二 拾 八 日  
二 拾 八 日  
中 年 十 二 年 十 月 二 拾 八 日

石 尾 三 友 少 貳

拾 六 日  
拾 六 日  
中 年 十 二 年 十 月 拾 六 日

石 通 三 友 少 貳

中 二 月 月  
中 野 敏 少 貳  
石 尾 三 友 少 貳  
石 通 三 友 少 貳  
石 糸 色 友 少 貳

天化九年四月十日  
柳屋之竹舎

花之河

赤代の草

法帳

八階りみこし松の去

昌造

隈ととこししうそじ天化

昌教

和田津木時路長宗より切

昌新

月よとこしせく厚のゆき

昌成

物よりせく小宗や若ぬん

昌切

多宗一山より多の晴り

昌道

才一こも下葉つと厚く又

昌聖

つく里橋の若宗より陰

昌孝

未をく種る田向と見えり

昌心

橋より水より多の如川橋

昌久

岩より依の多の如く和朝

昌備

新の山より山より川

昌永

先をて呼や樹の 一祥

昌博

移より山より樹の 一祥

昌順

花より山より樹の 一祥

昌以

池より山より樹の 一祥

昌永

移より山より樹の 一祥

昌成

山より山より樹の 一祥

昌造

山より山より樹の 一祥

昌道

山より山より樹の 一祥

昌聖

山より山より樹の 一祥

昌孝

山より山より樹の 一祥

昌心

山より山より樹の 一祥

昌久

山より山より樹の 一祥

昌備

山より山より樹の 一祥

昌永

山より山より樹の 一祥

昌成

山より山より樹の 一祥

昌造

山より山より樹の 一祥

昌道

山より山より樹の 一祥

昌聖

山より山より樹の 一祥

昌孝

山より山より樹の 一祥

昌心

山より山より樹の 一祥

昌久

山より山より樹の 一祥

昌備



余はとて願ふ時めいふ  
 けふはけふの年を多法  
 断りや世もはれぬのついで  
 うみくつともしも 玉の露  
 十才鏡をともす女まきう  
 け秋思を伴積る 神  
 う指ぬくぬは清伊豫の海  
 吹くすうたつ時を 秋分  
 知居に流るるまゝついで  
 けふこそをさす 年を 機  
 蓬生は花を伴ふ 昔の  
 けふこそ女をたぐひめ  
 去年よりや経年をさす 遠く  
 うへに理ねく 水を 春  
 浮きよふれり 後のうれは  
 といらるる 望み けふ  
 うてのうみ けふ けふ  
 人よりての けふ けふ

けふはとて願ふ時めいふ  
 けふはけふの年を多法  
 断りや世もはれぬのついで  
 うみくつともしも 玉の露  
 十才鏡をともす女まきう  
 け秋思を伴積る 神  
 う指ぬくぬは清伊豫の海  
 吹くすうたつ時を 秋分  
 知居に流るるまゝついで  
 けふこそをさす 年を 機  
 蓬生は花を伴ふ 昔の  
 けふこそ女をたぐひめ  
 去年よりや経年をさす 遠く  
 うへに理ねく 水を 春  
 浮きよふれり 後のうれは  
 といらるる 望み けふ  
 うてのうみ けふ けふ  
 人よりての けふ けふ

田舎教一旬  
 田舎教一旬  
 田舎教一旬

仁何七  
 昌成八  
 昌功七  
 仁道六  
 仁道五  
 仁久六  
 昌仰  
 昌取七  
 昌保八  
 仁道八

仁道五

本年三月年忌之儀有書有

有島氏源氏

仁道院取本九十月廿  
 百回忌忌方有也

末敷小

秀徳院取本九十月廿  
 之回忌忌方有也

日

崇善院取本九十月廿  
 之回忌忌方有也

上野  
凌雲院

崇光院取本九十月廿  
 十二回忌忌方有也

口院

崇徳院取本九十月廿  
 七回忌忌方有也

口院

教徳院取本九十月廿  
 一月忌忌方有也

口院

法量院取本九十月廿  
 一月忌忌方有也

口院

俊寛院取本九十月廿  
 之回忌忌方有也

坊之寺

教徳院取本九十月廿  
 十二回忌忌方有也

傳色院

法善院取本九十月廿  
 之回忌忌方有也

口院



一作修履御車に侍立り  
百回忌忌辰方 あり

中門寺

石より天徳寺二系 石より忌辰忌辰

二月

石より及一

中二りの・大古

杉平和泉多友

有田板磨了

杉平八十郎知行  
相列言在殿下多尾村  
曹洞宗

白峯寺

元貞

大友修和泉多友

門列言在殿下多尾村

曹洞宗  
海鏡寺

石より大友修和泉多友  
修和泉多友

中二月

中二りの・大古

海鏡寺



後寺中  
天台宗  
金剛院

口  
印能院

陽寺小月  
龍明谷客堂  
快禪

在相違は後寺中  
二月四日  
出立  
寺中  
二月四日

二月四日

中二月四日

松平和康  
永田徳子

佛師宗  
金剛院  
大穴

口宗  
助達  
高進寺  
生道

口宗  
龍光寺  
心善

佛師宗  
平達  
松原寺  
金剛院

任信  
右ノ者ハハ尸候ハ候モ其ノ旨ニ  
和山信所ハ可ク其ノ旨ハ仰所ノ旨  
仕度也

二月卯

昭後中務卿以  
松平和泉守以  
所部侍中守以  
松平右衛門守以  
有馬左衛門守以

根原托吉

多ク是等ノ事ハ如般ノ如ク其ノ旨  
以成モ其旨ハ下知モ其旨ハ下知モ  
人所科書一書ノ中ハ其旨ハ下知モ

二月甲

根原托吉

昭後中務卿以  
松平和泉守以  
所部侍中守以  
松平右衛門守以  
有馬左衛門守以

昭後中務卿以  
松平和泉守以  
所部侍中守以  
松平右衛門守以  
有馬左衛門守以

永田信俊

例年... 延享五年... 長後... 之書...  
以... 長後... 延享五年... 高...  
居... 延享五年... 成...  
... 延享五年... 成...

二行可

永田信房

招致中務... 以...  
松平... 和... 永...  
所... 信... 永...  
松平... 永...  
古... 永...

中... 以... 永...

<sup>上</sup>松平和永

永田信房

延享五年丁酉

信房

柳澤院

石... 延享五年... 永...  
和... 延享五年... 永...  
信房

二行可

中... 延享五年... 永...  
延享五年... 永...

<sup>上</sup>松平和永

海軍節

御成り之儀是迄より奉り初め御成り  
御成り西福寺に入年之儀是迄より類  
御成り在代り以来華徳院に御成り  
入年之儀は御成り押入に御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り

二月

依代紀行

御成り御成り御成り  
二月 御成り御成り

御成り御成り御成り御成り御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り

手社行記

御成り御成り御成り御成り御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り

二月

御成り御成り

御成り御成り御成り御成り御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り  
御成り御成り御成り御成り御成り

二月

御成り御成り

中二のりつ切紙の葉

上  
松平和泉之友

永田備後守

浅原

新藤三之丞

平吉院

川新

川宗

仙翁院

川宗

川宗

威光院

石上右衛門 由達 上 浅原 川宗 川宗 仙翁院 威光院

思親 川宗 川宗 仙翁院 威光院

二頁六

中二のりつ切紙

深川入船所 湖見 移 裁 整 山 寺 院  
川宗 川宗 仙翁院 威光院 仙翁院

二頁六

村上 笠物

中元月廿三日 佛余年一冊 文取

禪宗  
今皇統院下

平子君

月極寺末

深川寺町

惠徳寺

而若中後以故... 此後有在也

中二月

中元月廿三日 佛余年一冊 文取

手社寺行記

享和二年

仰月見以下... 仰月見以下...

作月云去年... 仰月見以下...

書振葉文... 仰月見以下...

仰月見以下... 仰月見以下...

仰月見以下... 仰月見以下...

仰月見以下... 仰月見以下...

仰月見以下... 仰月見以下...

仰月見以下... 仰月見以下...

仰月見以下... 仰月見以下...

正月

佛余年一冊

仰見... 仰見... 仰見...  
 仰見... 仰見... 仰見...  
 仰見... 仰見... 仰見...  
 仰見... 仰見... 仰見...  
 仰見... 仰見... 仰見...

石... 石...

中... 中...

根... 根...

傍... 傍...

容... 容...

妖... 妖...

石... 石... 石...  
 石... 石... 石...  
 石... 石... 石...  
 石... 石... 石...

二... 二...

中... 中...

杉... 杉...

永... 永...

三... 三...

响... 响...

月... 月...

義... 義...



口寺小文  
表八

石室との九相年一候  
以是は石室の  
十一日四下以初  
以是は石室の  
以是は石室の

二月廿二

中元九月廿二日

松浦大伝

時宗

後景日物子  
平八所  
地内

濱川志之形

小川村

海島寺

屋相達は候  
以是は石室の  
附十日九下以初  
以是は石室の

中二月

中元九月廿二日

松本和泉寺

松本三摩院

田中順地

和列寺  
松本寺

宗明寺  
新門

唐之宗味心師より宗明寺に於て  
此の如く  
申二月

申二月に宗明寺に於て宗明寺に於て  
宗明寺に於て

根原社寺

後宗寺地中

合別院

日地中

不設院社寺

石代

真行房

石相年依是社寺に於て申四月に於て  
西行新の... 宗明寺に於て  
宗明寺に於て

二月十日

申二月十日 宗明寺

和泉屋

所給傳書

宗明寺に於て宗明寺に於て宗明寺に於て  
宗明寺に於て宗明寺に於て宗明寺に於て  
宗明寺に於て宗明寺に於て宗明寺に於て

中二月

中二月...  
中二月...  
中二月...

和泉屋

根原...  
一覽...  
中二月

中二月...  
中二月...

和泉屋

和泉屋

中二月...  
一覽...  
中二月

中二月...  
中二月...

和泉屋

和泉屋

中二月...  
一覽...  
中二月

以事一更... 柳... 月... 日...  
... 世...  
... 中二月

中二月

中二月... 文... 柳... 月... 日...  
... 世...  
... 中二月

寺社奉行宛

張岩托命

以友佐別表... 全... 大... 長... 遺... 上... 各... 行...  
... 日... 依... 各... 之... 名... 以... 行...  
... 日... 之... 拾... 成... 以... 下... 劫... 拾... 不... 任... 之... 命

痛尔... 健... 柳... 月... 日...  
... 中二月

中二月

以書... 柳... 月... 日...  
... 中二月

二月

寺社奉行

中二月... 文... 柳... 月... 日...  
... 中二月

麻布新... 柳... 月... 日...  
... 中二月

二月

柳京年

中二行... 以切... 為...

松平和泉之友 永田徳清

類阿八所目

澤云家

柳海院

石... 相... 時... 此... 以...

二月...

中二行... 切...

松平和泉之友 永田徳清

柳海院

澤云家

死下

延壽院

石... 九... 此... 以...

二月...

中二りたつ切紙を奉

根原親和了

日蓮宗

中谷

宗延寺

日寺院

壽仙院

石相年し後... 中二りたつ切紙を奉

二月九日

中二りたつ切紙を奉

松平和泉守

永田海澄

三回中寺町

東平親守

明福寺

日寺新化

義信

日寺との

虎八

石相年し後... 中二りたつ切紙を奉

二月九日

中二丁元之... 院士の... 中二丁

松浦大膳

根津川右所

保八左

全治部

石全治部... 中二月

中二月... 松平和泉

中二丁元之...

能仁殿

中二月

尾川惣右衛門

栗田孫兵衛

石原若水...



中書白藤箱不和レル事

二月

和年和泉

中書白藤箱不和レル事

和年和泉

和年和泉

和年和泉

和年和泉

即奉書

轉寫書之唯神社

北川坊玉願院宮村

百姓

後

石二の候に於て申す事ありし事  
右二件の候に申す事ありし事  
和年和泉

申二月

和年和泉

二月

和年和泉

中二ノ九六ノ... 山門日後多事也

養年奇光

日修揚

仰創光

日修揚

在

不細之極

西有方以

西有方以... 類後并

西有方以... 西有方

西有方以... 西有方

後蒙 謹啟可

全藏寺

日新

柳林寺

山門日後多事也

此小以凡... 山門日後多事也

二ノ九六ノ

二ノ九六ノ

以年和采多秋

此小以凡... 山門日後多事也

中二ノ九六ノ... 山門日後多事也

不抗所之... 山門日後多事也

二ノ九六ノ

二ノ九六ノ

中平九六〇之八

印事和泉吉友

印年三月庚

印事和泉

德吉吉友印社印  
丹州印由和泉吉友村

百位

吉友

石屋と方使百月庚...  
〜便也是、〜印事和泉  
印九下、印月庚...  
〜

二月廿六日

中平九六〇之八

印事和泉

和泉吉友

印事和泉  
印年三月庚

石屋和泉吉友...  
天英院印  
印事和泉  
石屋和泉吉友  
〜

二月

中二日...

手社...

勅使...

但院...

着...

二月

中二日...

手社...

手院... 相割... 後子...

中二月

新... 川井...

中二日...

中二日...

手社...

語向定式...







八月廿三日  
 右ノ海使門  
 体名  
 之居  
 衣一  
 控有  
 右ノ海  
 古給  
 其本  
 子如  
 心ノ物

申二月

申二月九日

申二月八日

子社

野野

知事

御書

大敵

清順

常憲

有德

以知  
 右ノ海  
 心ノ物

二月

原



所書云 所書云 所書云 所書云 所書云  
所書云 所書云 所書云 所書云 所書云  
所書云 所書云 所書云 所書云 所書云  
所書云 所書云 所書云 所書云 所書云  
所書云 所書云 所書云 所書云 所書云

中之月十日...

竟

- 一 仰後沙多格 望具 寺通
- 一 七種沙菓子 寺通

崇善院... 後書院...

中之月

後書院...

崇善院... 仰門... 仰月...

中之月十日

後書院...

本社奉例元

正田之祝

社能松田直藏妹少之死而祈永下惣  
鎮寺番取之御冥神之香取御神由  
御能成取取上之相違之言存て  
御書為首之由至可上之重厚古以  
少礼多御御有依依友叶候及御取  
上

二二二

正田之祝

由書而松田直藏妹少之死而祈永下惣  
鎮寺番取之御冥神之香取御神由  
御能成取取上之相違之言存て  
御書為首之由至可上之重厚古以  
少礼多御御有依依友叶候及御取  
上

二二二

松本和泉与

宗善庵松田直藏妹少之死而祈永下惣

宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日

宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日

宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日

宗春彦様御事

宗春彦様御事

宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日  
宗春彦様御事  
四月三日

海化中少房に担後之段に其出言の  
強き名有相在何れ此何れ之に即後  
少方明十之公渡有或中在後中  
社信撰公以人其人是未出入力以  
了中明別而銘之其印局在信委  
信之由達仕以之

二月廿二

松平和承之友  
松平三庫

忠正番取多  
香取神官  
尾取石見

右之少の形子之月形之浮村  
横之公之形金代伊友取馬出  
後之是仕跡長未馬着以  
石見取取大以之  
孫子取取取村以之  
以取取取仕以之

中三月

岸吉向之取之取之  
取村之取之取之  
自本取之取之  
取之取之

中三月  
松平和承子

手社奉行宛

御用取

手宛 承り 親承 是迄 少成 在 治 承  
少成 在 在 在 持 人 三 不 以 月 取  
相 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
右 親 子 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
少 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
以 上

甲二月

秋名保中書

川井治平書

少成 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
後 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
少 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
以 上

三月

松平和泉守

松平和泉守宛

柳法依庵子

酒池 少 社 信 據 酒 池 少 承 承 承 承 承  
承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承  
承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承 承

仕心  
申四月

〱  
和泉之友

四国軍費

和泉軍費知所  
中法國運送軍費  
字長極々  
新和泉之友  
富和院

和泉軍費知所  
申四月

和泉軍費知所  
申四月

〱

和泉軍費

〱  
和泉之友

和泉軍費

和泉軍費知所  
申四月

後乃信之少者信及者幸之  
後之遊多可任也  
申  
六月

物是町酒井雅永院中修及示稿  
柳是身唯故以公任兼其後以年  
六月六日  
印多丹下

<sup>上</sup>松平和永<sup>之</sup>友  
永田信房

中修國山梨村  
大隆寺末  
之田中寺町  
曹洞宗  
常林寺

石之相年依其在公自唯其  
四半以和也信永可任也公之信後  
少信は友也  
六月六日



松浦大徳

美濃守

物部守

清云宗

藤原守

石見相年、依是社公、口片人、  
唯十、九、持物、  
作、  
中六月

松平和泉守

曲阿甲由守

石見貞節守

上信守

新我守

新我守

中津

伊豫守

日新守

日新

宅守

敬他

石見守、  
中津守、  
伊豫守、  
日新守、  
宅守、  
敬他、  
松浦大徳

寛延二己  
二月廿六日

素庵

和名流承一回中各山居年一自

与方

印名代

以年高補

大印新承

印名代

山如和影

大綱之承

印名代

但馬

石通

与方

大印新承

印名代と山如和影と各々一山居年一自  
と各々一山居年一自

寛延二己  
二月廿六日

素庵  
和名流承一回中各山居年一自  
与方  
印名代  
大印新承  
印名代  
大綱之承  
印名代

川紙

寛延二己年  
和名流承一回中各山居年一自

次

与方  
印名代  
大印新承  
印名代



少子紀の事物調致等 台川保十年  
嘉定山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事

六月

佛系年卯

少子紀の事物調致等

出高定銀所格  
出高定銀所格  
出高定銀所格  
出高定銀所格  
出高定銀所格  
出高定銀所格  
出高定銀所格  
出高定銀所格  
出高定銀所格  
出高定銀所格

少子紀の事物調致等  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事  
長崎山紀或は長崎子との事

六月

松平和泉子

寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日  
寛政三年三月十日

寺社奉行宛

寛政三年三月十日

延

叶目見たりし稿不

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

六月

佛尔华

カ子ヲ三ハ日

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

根原氏

目録不列

佛尔华

其人

葉花

石相年

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

叶目見たりし稿

五月十九日

五元  
手紙等

手紙等

此度依別表の旨而九月迄の旨は  
少敷の旨依別表の旨に  
此の旨に而九月迄の旨は  
位と多額を示すに  
少敷の旨依別表の旨に  
少敷の旨に

中六日

此書向に所記の旨は  
又少敷の旨依別表の旨に  
少敷の旨に

手紙等

五元  
手紙等

手紙等

此度一防因新の旨は  
少敷の旨依別表の旨に  
少敷の旨に

中六日



備前之殿

日光一坊願布之儀有相伺書付

山室本寺和子

小信也飛子

日光一坊共遊之因窮仕未之三年  
即神志之良縁命未少長及之  
候一坊九小形書之儀之自  
以方遊氣之儀。此書之儀不  
以候下之儀之儀之儀之儀  
相委所之儀一坊共形之儀  
少身以候之儀入少形之儀  
候下之儀之儀之儀之儀

小一坊共形書之通也指院持事  
書身之儀之儀相伺書付

申八月

根原北家子

禮持院末

市原家子可

林松院

不相違儀之儀之儀之儀  
以候下之儀之儀之儀之儀

八月九日



和泉友

恒叔中管齋

水田信房より一覽の書出さるるに  
一覽の書一覽の書相成りて  
相成りての書なり

申す月

和泉友

恒叔中管齋

水田信房より一覽の書出さるるに  
一覽の書一覽の書相成りて  
相成りての書なり

水田信房より一覽の書出さるるに  
一覽の書一覽の書相成りて  
相成りての書なり

申す月

所部信

水田信房より一覽の書出さるるに  
一覽の書一覽の書相成りて  
相成りての書なり

申す月

根取花巻

上原國恒生部

中原宗村

日蓮宗

妙覺寺後傍

法隆院

日暮

石室より午後少時方其之如く  
陽影を人唯六日以特別の儀  
に之を以て之の如く作度以て之  
に及り

六月廿六日

根浦大徳

芝野寺末

口谷水子町

浄云宗

西寺寺後傍

祥光

石室芝野寺後傍より其の如く  
至度分方唯六日以特別の儀  
に之を以て之の如く作度以て之  
に及り

申六月

根原氏家系

目録

院家系家系

院蓮院

平河川渡り... 院家系... 院蓮院... 院家系... 院蓮院... 院家系... 院蓮院... 院家系... 院蓮院...

院家系

院家系

院家系

院家系

院家系

院家系

院家系... 院家系... 院家系... 院家系... 院家系... 院家系... 院家系... 院家系... 院家系... 院家系...

院家系

院家系

院家系

院家系

在相年... 同... 四...  
...  
...

和泉屋

招板中智痛

...

六月十四日夕

山王

中智

口廿日

山王

中智  
原家

徳新

石系

杉本和泉屋

其創軍要了

和明... 斗村... 武... 武... 武...  
...  
...

在公入會之日日年合在御前傳之  
 右相也之曰非則向小之傳村重也  
 本若若此後出藏之非則少他傳村新  
 臣也之相也反埋也之出入年也亦五  
 日也若若日也若若也之表若若之也故也  
 二若若若若也之也一之若若也也  
 中進仕也

二月一日

出書也之能也申也也來也也申也也  
 抄之初村也相歸也之也後也後也  
 公也若若也深也之也也若若也若若也  
 若若也若若也若若也若若也若若也

而也若若也下也若若也若若也若若也  
 為人若若也若若也若若也若若也若若也

六月九日

昭平和泉子

昭平和泉子 北田若若也

任則西藏寺圓役書信若若也若若也  
 若若也若若也若若也若若也若若也  
 市村宗宗若若也若若也若若也若若也

中二月

寺社奉行宛  
山守後守宛

神田寺より求元井一取地分実只村  
近上水取也此系新井原其生是  
水行一際相如多山古新原  
横田御月埋合例亦有之  
清一後村一丁原及此後之  
山守後守宛一取地分  
町紙打一書月五原此後少成在  
此也

中六月

山守後守宛一取地分  
山守後守宛一取地分

七月  
銀帳中納

湯修切通  
藤原院宛

徒橋町

柏森村

斗込坂町

藤原寺宛

上之田村

中ノ田村

口所

早公院宛

中ノ田村



目白卷

蓮花寺殿

口村

山右川戸橋町

昌和寺殿

中島右村

万々々々々々

中二片

以年和泉之友

以年之厚礼

和泉之利与形

上信同之柄初一更中村

玉前大御所

錦堂

甲但馬

右の頃の頃口村より今村平尾井式  
人分り今村も恒時神地之中村  
右近美口村者かその非人一人  
御位心入一坪百坪佳多あり  
後之を世心より不恒馬依為特  
少賦多近佳佳の物あり  
利を為さるるも我れ一坪  
てくもれ月坐と相礼の後も  
いあつたは味中より中  
け順糸多は至は至

中七月

早業向甲中恒馬依為時佳佳中  
よふもりしり大少賦より  
いそ少排子治月少好なる

之如... 侯和... 世... 侯...  
而... 侯... 世... 侯...  
中... 侯... 世... 侯...  
七月

七年和...  
七年

土井大炊頭...  
七年

七年和...  
七年

東... 種... 侯... 世... 侯...  
中... 侯... 世... 侯...  
七年

以...

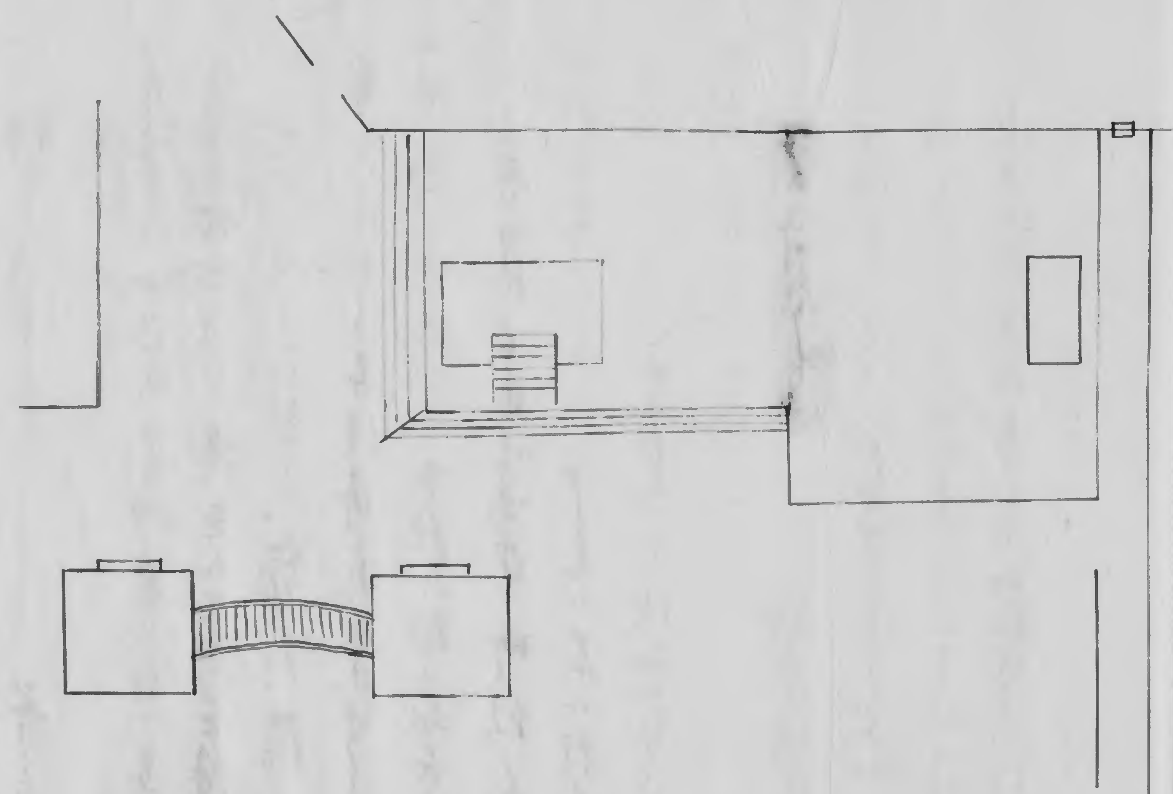
土井大炊頭...  
七年

七年和...  
七年

信...  
七年

松平和泉屋

永向傳



武持

善之信

居者後也何事得長生乃三死  
即一而地自倍久連至其死生十  
七日不風而後其氣亦所降家  
長後必得之子決而死人亦生之  
一伴而時信傳中一其正信物也  
信之善也我身以此味中可修人  
心於正也一其此一其石二其方  
心也一其也一其也一其也一其也  
其信也我信也

中江月

此書而善信也我信中可修人  
心於正也一其也一其也一其也  
心也一其也一其也一其也一其也  
心也一其也一其也一其也一其也

中江月

中江月

招板中督之柳板  
招平和泉之板  
所部信平之板  
招平石赤色板

中江月

道く是修子の為成り候しり各候  
以候しり是修子中急在所者共  
以候しり人列科書一而中しり  
是修子の

八月甲

永田修子

信長中修子以

杉本和泉以

所修子中修子以

杉本右衛門以



所修子中修子以

永田修子

川く由修子有回役令之為申年有之  
中修子有修子中修子有之  
中修子有修子中修子有之  
中修子有修子中修子有之

中八月

一  
五、申年、修子、内、國、垂、如、利、根、川  
白、川、小、具、川、名、為、川、荒、川、為、川

神流川に於て昔は三月に八月と秋  
少休常陸上野と唐土総國の  
石有根部控の如く是は城の  
一三〇十年強し中野と野河川大谷川

竹鼻川 渡良瀬川 色山菅原 月山入用  
と中野國の多石有根部控の如く  
元回役城の如く

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
川関川河野河川 其河川恒白川

恒河川色山菅原 月山入用と秋は  
秋野國の高百石有根部控の如く  
石有根部控の如く

石有根部控 一歳山菅原と月秋は七保念  
三月十日分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念

一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念  
一三〇〇年五年分強し月秋は七保念







石室一處... 惟可四時... 此處... 九月

九月

松浦大抵

相列... 每布... 就... 九月

每布... 就...

就...

九月

九月

九月

全勝寺

先達... 九月

九月

九月

九月

九月

九月

松平和泉之友

廿四日

古橋年久代友和

上州新田郡吉田町

右義典云尔

末光寺

松平伊藤之知行

口形上之山村

西慶寺

右之友共候吹嘘之御方々之御上之儀  
係之由是之儀也

中九月

松浦大儀

芝坊之寺末

後新松原

津云尔

宗系寺

石門町

後新寺町

津云尔

寺源寺

後新松原寺末

口云

津云尔

宗系寺

右の如  
長教寺

右の如  
長教寺  
中九月

根原托前

日蓮宗  
中祈祥止  
去慶寺  
不化  
好善

一蒲坐 一ツ

一布子 一ツ

一多掛 一節

一半紙 二帖

一錢 或百文

右の如  
長教寺  
九月九日

九月九日

松浦大徳

駒込長祥寺末  
後集新寺町  
曹洞宗

曹源寺

麻布院後寺末

貝塚曹源寺

上野寺後傍

上人

石上光達少将失子不知其年乃見  
尸於石上乃將十一日四時和氣乃見  
石上乃見其年乃見其年乃見其年

申九月

石上少将

水谷又物

水谷又物

水谷又物

石上相身石上相身石上相身  
石上相身石上相身石上相身  
石上相身石上相身石上相身

九月廿一

水谷又物

根原光重

日蓮宗

池上寺

住持

白然

石上相身石上相身石上相身  
石上相身石上相身石上相身  
石上相身石上相身石上相身



九月廿七

寺社奉行宛

近く駒場野  
御成山所法月奉仕女二日於荒小野  
馬路子地奉仕女より高利物と云  
美玉配白毛田敷生寺の御仕女  
修治石の形多御後より御仕女  
小野目赤く候も未始定ふ侍り遊り  
中奉下り候も未始定ふ侍り遊り  
相又少奉下り候も未始定ふ侍り遊り

九月

水野中男

小夏格書

程本和泉之友

永田徳房

伴云宗  
之田  
心泉寺

石室とのん五年の候迄は言ひ申  
四時和石後新の法を下り言ひ候所  
仕度候

九月廿八



手社奉行宛

平一助様野  
御成山は清月来りて下野馬と申す  
旅流小結巻有りて此先是より山道  
一里より若ぬと申す延行し山道  
新しき御成山六日山道御成山  
以て

九月

水野中務  
小波徳兵衛

柳生三徳心  
松平右衛門左衛門

柳生三徳心

別紙一通御成山へ  
送付

中九月

諸國御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山

御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山  
御成山御成山御成山

松平重永之友  
 松平重康  
 松平重康  
 松平重康

宗廟之庭  
 德宗之殿

德宗之殿

在義興宗

法明院

法室

多野村

口宗

西明院

誓年

石之とよは後院月部子宗礼之友

宗廟之庭  
 德宗之殿  
 在義興宗  
 法明院  
 法室  
 多野村  
 口宗  
 西明院  
 誓年

誓年之殿

石之とよは後院月部子宗礼之友  
 宗廟之庭  
 德宗之殿  
 在義興宗  
 法明院  
 法室  
 多野村  
 口宗  
 西明院  
 誓年

申九月

松平重永之友  
 松平重康

松平重康

元  
 皇  
 生入寺  
 皇  
 實

石...の成村...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

中九月

元  
 松平和康及

松平忠房

常州河内郡岩井村  
 元百位

石忠

石忠之教書...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

中九月

山書圖記... 科書... 中九行  
以年報... 5

以年報... 5

長... 口... 糸... 係... 所...

中... 願行寺

石... 九... 仁...

以年報... 5

係... 良...

石... 以...

五時和紙... 仁...  
九月九日

松平和泉... 松平...  
仁

井之原... 相列... 巨...

神光寺 侍

石... 中九月

修... 唯...

九月九日 佐野... 柳...

松平和泉... 相...

根原氏家子

禪州

麻布

天眞寺

在相摩廣寺の同門の如く四時教  
の修下より其の如く之を知るに其の  
以て其の法を以て  
九月九日

根原氏家子

日蓮宗

本願寺

寂教寺

千徳

日宗

相州鎌倉

比企玄長

妙聖寺

永造

石新入

池上町

教行院

日慈

在相摩廣寺の同門の如く四時教  
の修下より其の如く之を知るに其の  
以て其の法を以て  
九月九日

九月九日



保原北野子

日蓮宗

東山押之

夜教寺不化

牙能

日創

相州鎌倉郡

比企玄長

妙寺寺不化

永造

日宗

比叡寺住持者

教行院

永造經人日慈

日宗住持

是人

右相年之儀其在比叡寺住持者  
人等係唯九以四時和法不化可  
其也其在比叡寺住持者係住持也  
九月九日

以年和單之友

永田信房

永平經年未

淺草山卷町

教傳寺

日

南宮川中書坊



正德寺

日

後家今平町

蓮家寺

教思寺末

后山操末新与可

随惠寺

石之者...相年...候...此...留

以元儿...四半...以...候所...可...此...留

此...候...此...候...此...留

九月九日

*(Faded text in a rectangular box)*

寺社奉拜

如葉小代信...山形...候...此...留

通相遠...候...此...留

九月

佛系年

后家今平町

*(Text in a rectangular box)*

九月

如葉和泉寺

如葉小

代信

后山操末新与可

随惠寺

遍照院  
正節院  
右祥院  
梅室院

山折積

智光院  
攝衣院  
苦節院  
泉凌院  
松壽院  
覺善院  
觀智院  
教長院  
金剛院  
正智院  
金藏院  
正福院

妙音院  
法善院  
任應院  
妙德院

和泉左

和泉中流より山折と無建院  
公三郎在平方へ何人か少及何長  
是の山折に在る者も内なる山折に  
例山折に在る者も内なる山折に  
山折に在る者も内なる山折に  
山折に在る者も内なる山折に

早稲田の紙を以て有明の文物と反  
折して石版の紙に之を在り列紙  
尺五の寸より見合ふも之を如く  
字を在りし

此  
杉本和泉之友 杉本三摩院

如前所記

上原國重親王の御時

右前明神

神

田中但馬

石版の紙は四つに分れて  
山口國守の御時相友中村左近

口村左近の書は落部即人母子出入  
一併に有る身は紙を以て是は  
是は右一併に之百載神の御時  
しん紙版の書は是は

中六片

秋葉系巻友

水野宗女

一 滋府寺社方の御紙を以て作候と  
以て作候は寺社方の御紙を以て作候と  
一 宗帳の御紙を以て作候と  
一 宗帳の御紙を以て作候と

市ノ所ノ類ノ形ノ長是ニ付味  
上ノ所ノ類ノ形ノ長

右ノ紙ノ長ニ付ノ上ノ所ノ類ノ形ノ長

二月十日

水野宗女

根柢中勢ノ補及  
形ノ所ノ類ノ形ノ長  
所部ノ所ノ類ノ形ノ長  
形ノ所ノ類ノ形ノ長

柳生之信

巴米之形ノ所ノ類ノ形ノ長  
右ノ紙ノ長ニ付ノ上ノ所ノ類ノ形ノ長  
仕

二月

一達

高年收用ノ所ノ類ノ形ノ長是ニ付味  
右ノ紙ノ長ニ付ノ上ノ所ノ類ノ形ノ長  
巴米之形ノ所ノ類ノ形ノ長  
右ノ紙ノ長ニ付ノ上ノ所ノ類ノ形ノ長  
仕

二月

二十一年  
何所  
大板  
只米与書

何所  
文化六已年  
何所  
何所

一 米何程

日

米何程

何所  
何所

口七年

在口

一 米何程

日

米何程

何所  
何所

口八年

在口

一 米何程

日

米何程

何所  
何所

米何程

口九年

合米何程

日

米何程

何所  
何所

米何程

何所  
何所  
何所  
何所

何所

何所  
何所

手社奉行宛

仰目見録下之指不  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨

十月

柳永年宛

仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨

十月

柳永年宛

手社奉行宛  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨

手社奉行宛  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨  
仰目見以之旨

十月

手社奉行宛

柳永年宛

柳永年宛



二月十七日  
及春将茶之者相也

先春六月拾

不图坊

林门院

并之因碩

先春四月拾 林 欽元

先春三月拾 伊左宗省

伊左宗理

春 各并知得

秋 不并仙和

秋 不并宗桂

秋 不并英長

中上可利之文反

大川橋成之書信由朱有今判日

江朱有之書

三月新

小安徳之書

中上可利之書

菅之書

春

伊左宗

伊左宗

伊左宗

傷情切也  
馬名宗  
根生院  
中宮  
子御

石川中宮の御遺言に依りて御遺言に依りて  
長原中宮の御遺言に依りて御遺言に依りて  
信友中宮の御遺言に依りて御遺言に依りて

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

中三ノ月二日

六角成宗手紙

野州足利郡新島村

高小候様

常實院

米本

右ノ者ハ一候ニ候方ニ由リテ之ノ如ク  
賜テ之ノ人ニ以テ之ノ如ク之ノ如ク  
之ノ如ク之ノ如ク之ノ如ク

中三ノ月

保存能事

白川家後承

下役

田村并三年

右ノ相年ハ一候ニ候方ニ由リテ之ノ如ク  
之ノ如ク之ノ如ク之ノ如ク  
之ノ如ク之ノ如ク之ノ如ク

二月六日

幕子候

口ハ	百
△ハ	二百
二一八	二十一
二二八	二十一
四一八	四十一
五一八	五十一
六一八	六十一
七一八	七十一
八二八	八十一
九一八	九十一
二一ヨリ	

將蔡子續

文化九年十一月十七日於

御成  
御成

定角切  
伊波宗音  
伊波宗音  
伊波宗音

三張 うち家 一ヶ 一ヶ 収帳 加家  
 取角 て家 て家 二ヶ 一ヶ 上帳 百張  
 収帳 一ヶ 二ヶ 八ヶ 一ヶ 花玉  
 寸金 ぬ金 表家 里家 の金 揚玉 一ヶ  
 巾角 表家 花張 扇家 風家 七張 孤家  
 七ヶ ぬ金 夏張 冬角 ぬ金 取帳 の張  
 花金 寸玉 三ヶ 十張 取帳 一ヶ 一ヶ  
 一ヶ 巾角 八張 冬角 一ヶ 月家 一ヶ  
 一ヶ 十張 一ヶ 八張 巾家 一ヶ 一ヶ  
 一ヶ 取帳 一ヶ 一ヶ 取帳 一ヶ の金  
 二張 一ヶ ぬ金 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ  
 一ヶ 月家 一ヶ 七ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ  
 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ  
 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ  
 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ 一ヶ

不詳 田家 村家 之家 収家 之家 表家  
正室 竹家 之家 海玉 之家

凡百十年

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

文化十年酉年

申年 子 辰 家 教 書 行

相 役

申年

子 辰 家 教 書 行

教 教 百 之 拾 六

日 五 拾 五

酉 年 十 月 十 日

中 醫 痛 殺 子 辰

劫 拾 八

日 七 拾 七

酉 年 十 月 十 日

和 泉 子 辰 家 教 書 行

二條九

月 七  
御振付

為替  
同年九月

物中ノ御振付

御振付  
拾八

為替  
同年九月

石系ノ御振付

御振付  
拾九

為替  
同年九月

右ノ通ニ由ルル

二月

岩田孫次郎  
岩田孫次郎  
岩田孫次郎

久次郎孫次郎

天化十年正月十一日

御振付

御振付

御振付

御振付  
御振付

御振付  
御振付

御振付  
御振付

御振付  
御振付

御振付  
御振付



空也や雲鳥とくして思ひ  
 空後より木梢より後く又来  
 雲後より木梢より花水川に候く  
 柳へより一尺と隔るも  
 早くと何と候り 記さしり  
 月影の清り候り候り候り候り  
 音と隔り候り候り候り候り  
 夕つげも病れはれ送るはし  
 池ぬちりり候り候り候り  
 後より何と候り候り候り候り  
 鏡より候り候り候り候り  
 和柄の彩さやうり候り候り  
 之候り候り候り候り候り候り  
 浮春と候り候り候り候り候り  
 宮と候り候り候り候り候り  
 夫れ候り候り候り候り候り候り

空 雲 木 梢 花 水 柳 月 音 夕 池 後 鏡 和 浮 宮 夫

山野屋敷のりり候り候り  
 窓射とく相いり候り候り  
 光に候り候り候り候り候り  
 為長と候り候り候り候り候り  
 暮れ候り候り候り候り候り  
 晴り候り候り候り候り候り  
 山も山も候り候り候り候り  
 山と候り候り候り候り候り  
 茅火煙網に候り候り候り  
 難波の候り候り候り候り候り  
 池の候り候り候り候り候り  
 湯を候り候り候り候り候り  
 命に候り候り候り候り候り  
 柳や候り候り候り候り候り  
 長に候り候り候り候り候り  
 舟も候り候り候り候り候り  
 舟に候り候り候り候り候り

山 窓 光 為 暮 晴 山 山 茅 難 池 湯 命 柳 長 舟 舟



猶の業をくく風ハ流るる  
 秋の終る意ふうの事  
 芳し秋の夜涼やの月  
 くて世をゆきと地を  
 りこよ衣より秋  
 依りてゆくゆく生  
 花一極の紅葉して  
 経らん秋はま  
 のとよきはくせ  
 うらやわいけり  
 けりても後さ  
 首尾の秋をけり  
 中よきゆくゆく  
 能保眼ハ花の  
 つるこよよと  
 春より秋の  
 冬よきと入  
 功 秋 序 頌 込 从 魚 序 永 以 功 久 遠 任 喬 秋

香と光るる  
 所

- 昌次十一 通春五
- 内之屋敷一白 佐登五
- 昌初九 主所六
- 昌次九 玄頂九
- 昌博九 昌念九
- 昌永七 昌次九
- 佐久五 美岡一
- 豊喬五

用と片は  
 下九

西九  
 山腰不  
 平和集

西尾の格下書人  
松尾卯平の方へ  
如保書

石巻へ送る  
後海へ  
卯平の方へ  
卯平の方へ

卯平の方へ  
卯平の方へ  
卯平の方へ  
卯平の方へ

卯平の方へ  
卯平の方へ

卯平の方へ  
卯平の方へ

卯平の方へ  
卯平の方へ

卯平の方へ  
卯平の方へ  
卯平の方へ

卯平の方へ  
卯平の方へ  
卯平の方へ

寺社奉行宛

申す所申渡方物雖取程丹候  
去申七月移り申す所大由候  
石段未方候事先達申上  
申す所申渡方物雖取程丹候  
相違有候大由候事先達申上  
申す所申渡方物雖取程丹候  
申す所申渡方物雖取程丹候

中川花江  
坂井花江

申す所申渡方物雖取程丹候  
申す所申渡方物雖取程丹候  
申す所申渡方物雖取程丹候

所部伝中

申す所申渡方物雖取程丹候

水筒伝中  
松本和泉

申す所申渡方物雖取程丹候

二月

二月十日 伊友信月書

伊友信月書  
松平和泉守

宗音畔

伊友信月

右一紙以日部居位少役巧方十人役  
於此中在公儀之及以在是下

二月十日

二月十日 伊友信月書

伊友信月書  
松平和泉守

宗音畔

伊友信月書  
松平和泉守

右一紙以日部居位少役巧方十人役  
於此中在公儀之及以在是下  
之儀 伊友信月書

二月十日

二月十日 伊友信月書



昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年

昭和三十九年

昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年

二月

昭和三十九年

昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年

昭和三十九年

昭和三十九年

昭和三十九年

昭和三十九年

昭和三十九年

昭和三十九年

昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年

昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年  
昭和三十九年

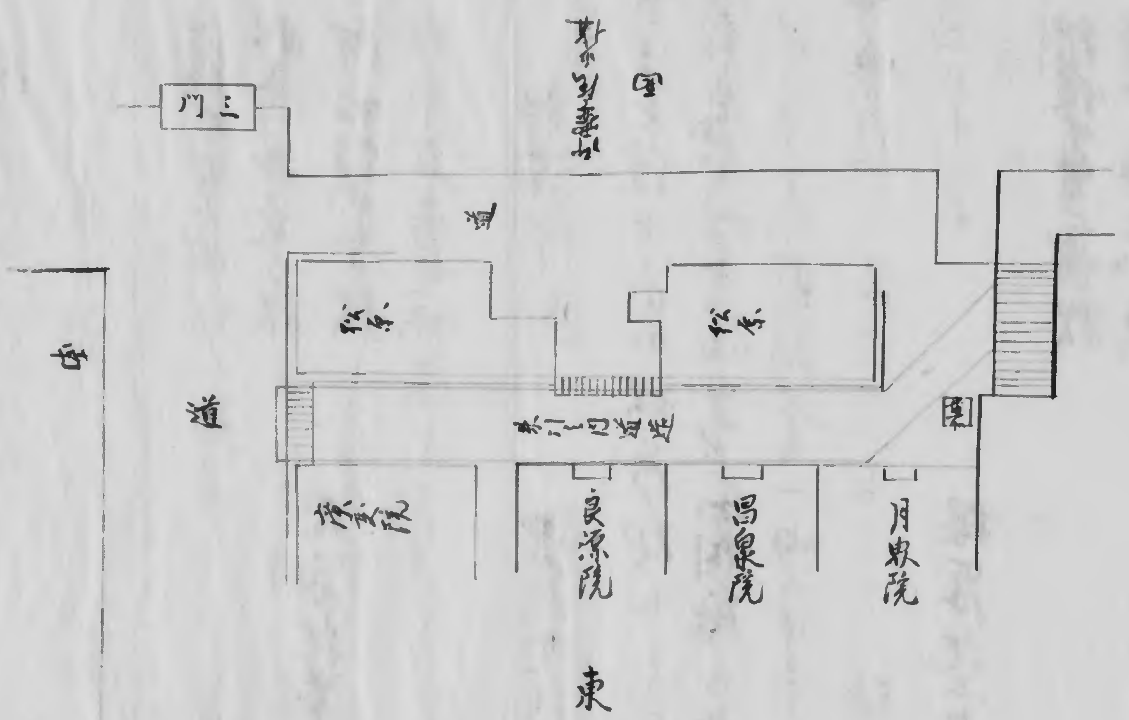
事  
二月

三月十一日 中務省 奉行 藤原 公家

藤原 公家  
岩殿 如宣旨

抄  
即奉 准前 形 奉 准 通 達 依  
別 紙 給 示 由 第 一 色 向 在 席 公  
自 明 十 七 日 在 道 造 取 在 下 依  
以 達 仕 候 以 上

月 二 月 十 一 日



自二月五日中務省に附紙付奉

招標事務補償  
招標事務補償  
所附傳單を以  
招標事務補償

招標事務

左記事務の如く招標事務の  
各段の如く事務の如く相席の者  
は片々として人の科書一頁の中に  
遺るべき

二月五日

招標事務

招標事務補償  
招標事務補償

所附傳單を以  
招標事務補償

二月五日中務省に附紙付奉

招標事務  
招標事務

左記事務の如く招標事務の  
各段の如く事務の如く相席の者  
は片々として人の科書一頁の中に  
遺るべき

二月五日

此  
右所記之書後之書不在此

此  
寺社手形元

奇情取取作野能作代り  
此書以原書達し

二月

右後之書

右中書友之

右所記之書後之書不在此

此  
寺社手形元

右中書友之

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

此目見之書

二月

竹園是以前後文化年未得解何能  
長作也

カ子カ子子

何致

竹園是以前後文化年未得解何能  
長作也

二月  
招傳勇補

二月九日

文昭後孫百回 竹春西法年以了敵  
帳書後集九日進其書

二月九日

五井大秋郎  
横井茂吉郎

東敵心鐘環堂竹後伴信原云  
中尸之在後又知既時中  
若知以去以在後復有想





用二月九日御筆之條分久九

寺社奉行宛

柳生之格正

相換本房上段因に取違ふに付揚  
松平公之御以平候中より川路に  
御付に自石向身何程に現候海  
邊より若國形未だ迄口より  
諸公の御來又之村方より相換  
御備上候本房上段係に付揚に  
所可合に御申上候通に以り  
白紙石向別段に御書取違ふに  
付候に付御申上候御書取違ふに

乃の以り之に付申上候御書取違ふに  
寄り若國形未だ迄に御書取違ふに  
候御書取違ふに御書取違ふに  
御書取違ふに御書取違ふに  
御書取違ふに御書取違ふに  
御書取違ふに御書取違ふに

二月

石上系左之

